

高知県の畜産

平成21年度



高知県農業振興部畜産振興課

目 次

・はじめに	1
・農業の概況	2
・部門別概況	3
1 酪農	
2 肉用牛	
3 養豚	
4 養鶏	
5 養蜂	
・高知県の特産畜産物	6
1 土佐ジロー	
2 土佐はちきん地鶏	
3 土佐褐毛牛（土佐あかうし）	
・牛乳・食肉・鶏卵流通	10
1 牛乳	
2 食肉	
3 鶏卵	
・飼 料	14
1 自給飼料	
2 流通飼料	
3 日本型放牧	
・環 境	16
・家畜防疫・衛生	18
・高病原性鳥インフルエンザ対策	19
・牛海綿状脳症（BSE）対策	20
・高知県の畜産関係機構	22
・畜産関係団体	23
・家畜の飼養農家戸数・頭羽数の推移	24

はじめに

本県の畜産は、温暖な気候に恵まれた環境のもと、生産者をはじめ関係者の努力により、農業の基幹部門の一つとして発展を続けているところです。特に、「土佐あかうし」や「土佐ジロー」は本県の特産畜産物として既に定着し、新たに開発された肉用鶏「土佐はちきん地鶏」につきましても関係者から高い評価を受けると共に、飲食店や量販店でも目にする機会が増えてきているところです。

こうしたことを背景に、平成20年の高知県の農業産出額は、農業全体では前年対比5.4%増加し、畜産につきましても9.2%、約5億円増加しました。また、減少が続いていた肉用牛の頭数もわずかではありますが増加に転じるなど、畜産農家の努力が数字となって現れています。

しかしながら畜産を取り巻く現状は、畜産農家の高齢化や後継者不足による家畜飼養頭羽数の減少に加え、過去に経験したことのない飼料価格の高騰などによる生産費の上昇や景気動向による市場価格の低迷など、極めて厳しいものがあります。

このため、県としては、生産者が意欲をもって畜産に取り組むことができ、さらに消費者に対しても安全で安心な畜産物を提供できるよう、平成21年度からスタートした高知県産業振興計画の品目別総合戦略において、生産から流通・販売までを一体的に支援することとしました。この中で、酪農においては牛群検定の普及や牛舎快適性向上への取り組み、肉用牛では優秀な褐毛和種雄牛の造成や耕作放棄地等を活用した放牧の推進、生産技術の向上や土佐和牛の消費拡大を、また、土佐ジローや土佐はちきん地鶏においては生産拡大やそれに見合った販路拡大への取り組みなど、さまざまな施策を進めてまいります。加えて今後は、家畜排泄物の適正な処理・堆肥化等を通じて、環境に負荷をかけない地域内循環型の畜産への転換や、稲WC Sや飼料用米の生産・利用など、自給飼料増産の取り組みにも積極的に対応してまいります。

また、家畜衛生では、平成21年2月から3月にかけて、愛知県の養鶏農家で高病原性鳥インフルエンザが発生し、多大な損害が生じました。本県においても、感染経路と考えられる野鳥の鶏舎内への侵入防止対策を中心に、養鶏農家への立入検査やモニタリング検査を推進しながら、今後も危機管理体制を強化していきます。

本冊子が、高知県の畜産に対する認識を深めていただく一助になれば、幸いです。

平成22年3月

高知県農業振興部畜産振興課長

桜谷 芳史

農業の概況

1 農業就業人口・戸数と耕地面積の推移

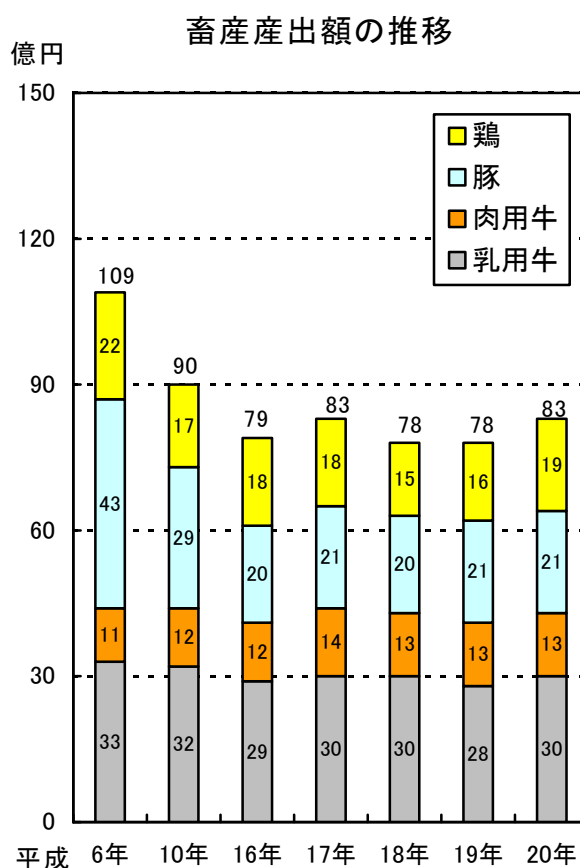
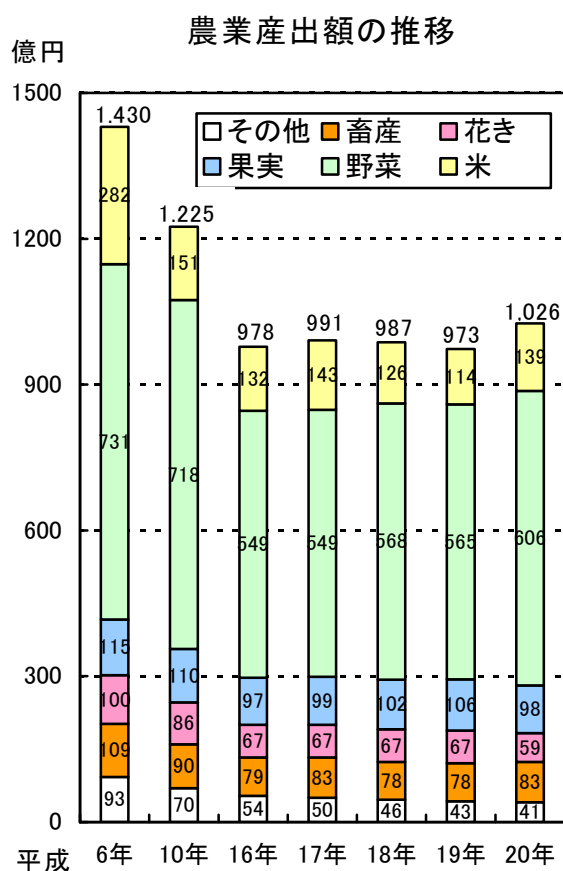
本県の農業就業人口は40,134人（平成17年）で、昭和20年代後半から産業構造の変化に伴い年々減少しています。年齢構成では60歳以上が34,000人と大きな割合を占め、高齢化が進んでいます。農家戸数は21,069戸で、そのうち専業農家は8,556戸（40.6%）となっています。

また、本県の耕地面積は28,700ha（平成21年）です。内訳は、田21,600ha、普通畑3,140ha、樹園地3,770ha、牧草地257haです。昭和35年には59,000haあった耕地は、この50年間に半減しました。本県では中山間地域が占める面積が広いため、農家の経営耕地面積は小規模です。

2 産出額の推移

平成20年の農業産出額は、前年から5.4%増の1,026億円でした。

畜産部門の産出額は、前年から6.4%増の83億円でした。これは農業産出額の8.1%に当たります。畜種別では、乳用牛30億円、豚21億円、鶏19億円、肉用牛13億円となっています。



部門別概況

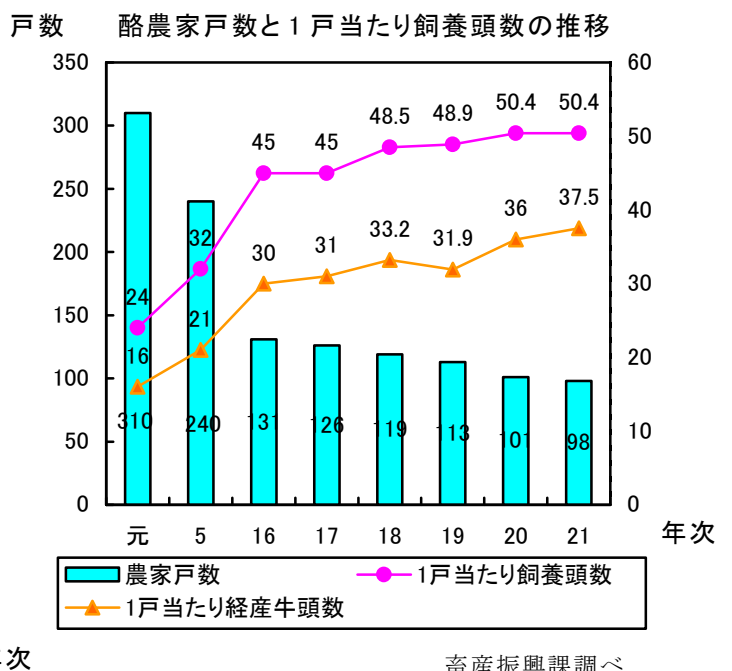
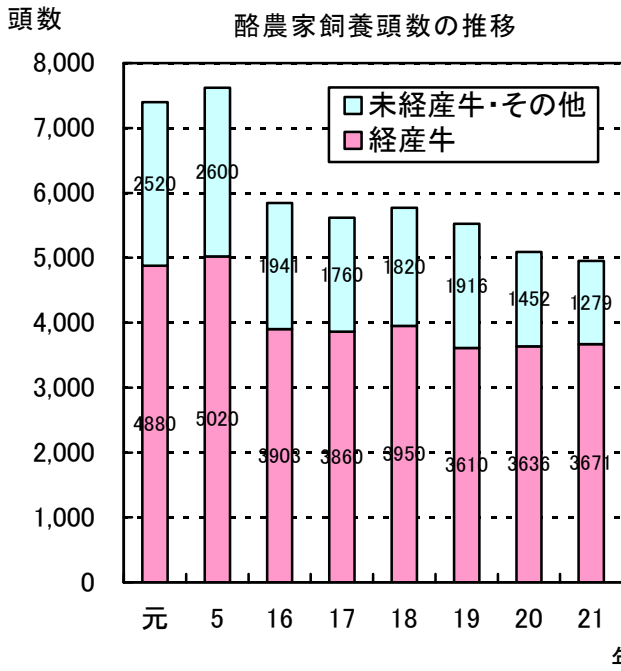
1 酪農

酪農家戸数および飼養頭数は、農家の高齢化や後継者不足、環境問題等により年々減少してきました。近年は後継者が就農する経営が増えてきたことから、平成18年は飼養頭数が増加しましたが、平成19年以降は減産型生産調整により経産牛の淘汰や交雑種生産が進んだため再び減少しました。

一方、1戸あたりの飼養頭数は平成元年と比較して約2倍を超え、年々大規模化が進んでいます。飼養形態も従来の繋ぎ飼いでパイプライン搾乳の方式から、牛が自由に行動できるフリーバーンでミルクングパーラー搾乳の方式が増加しています。

大規模化に伴い、大量に発生する家畜排泄物を適正に処理するため、地域に堆肥センターを整備して積極的に堆肥化を行い、畑等に還元することで家畜排泄物を有効利用するケースも見られています。また、香美市や南国市、大月町では、本県の温暖な気候を活かして乳牛を一年中放牧する山地酪農も行われています。

毎月の乳量や乳成分率を測定、記録する乳用牛群検定には現在、29戸が加入しており、牛舎快適性向上モデル農家4戸による実証展示など、泌乳能力の改良や飼養管理の改善に生かされています。また、県域、あるいは各地域毎に共進会や研修会が開催され、日頃の体型改良や飼養管理技術の成果を研鑽しあうとともに、酪農家相互の親睦も深められています。

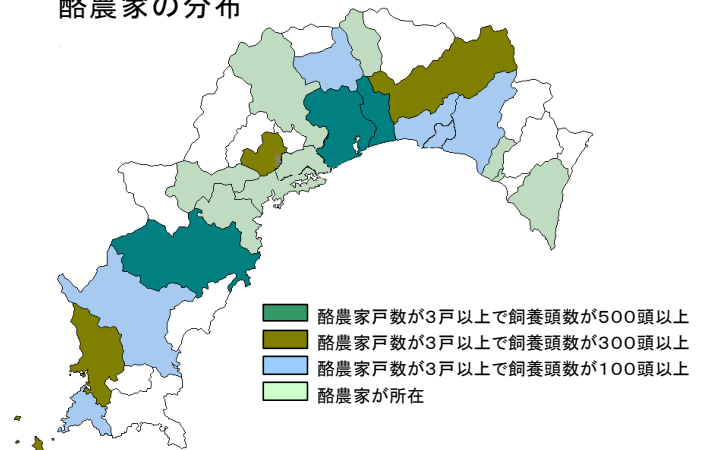


畜産振興課調べ



酪農家を集めた研修会を開催

酪農家の分布

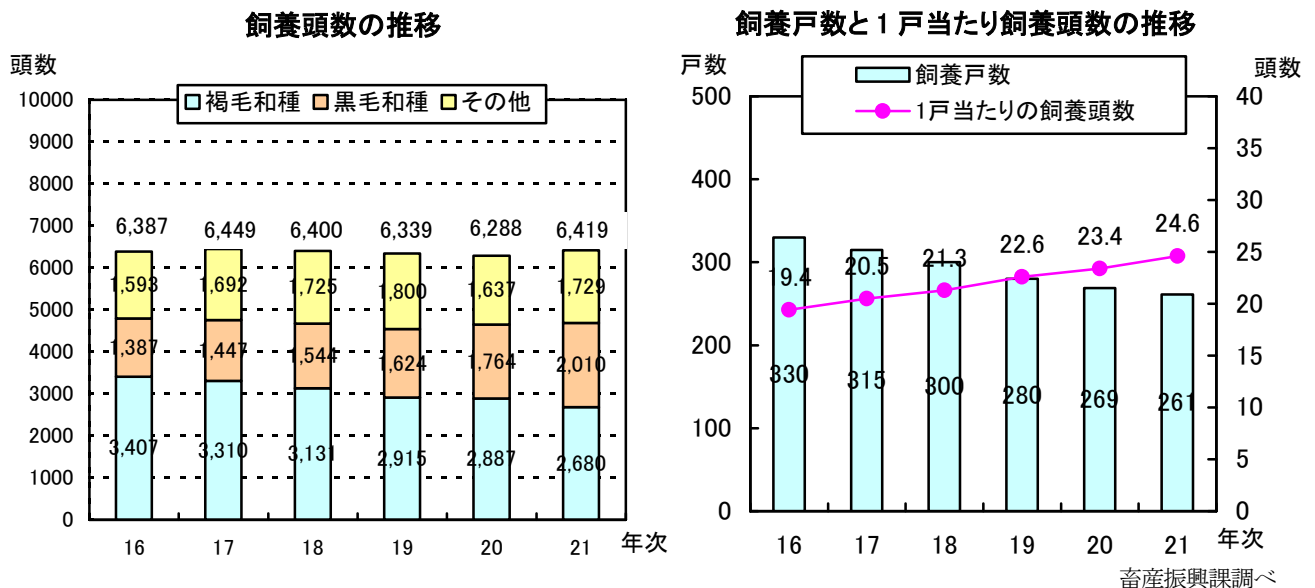


2 肉用牛

平成21年の飼養頭数は、前年に比べ2.1%増の6,419頭となりました。内訳は、褐毛和種2,680頭(7.2%減)、黒毛和種2,010頭(13.9%増)、その他(乳用種、交雑種)1,729頭(5.6%増)となっています。

また、平成21年の飼養戸数は、261戸(3.0%減)となり高齢化や後継者不足等を要因とする廃業により小規模農家が減少しました。一方、後継者をもつ肥育または一貫経営においては規模拡大を図る農家があり、全体として農家1戸当たりの飼養頭数は増加傾向にあります。

肉用牛生産基盤確保のため、飼養者の確保と牛(特に繁殖雌牛)の増頭が最重要課題となっています。



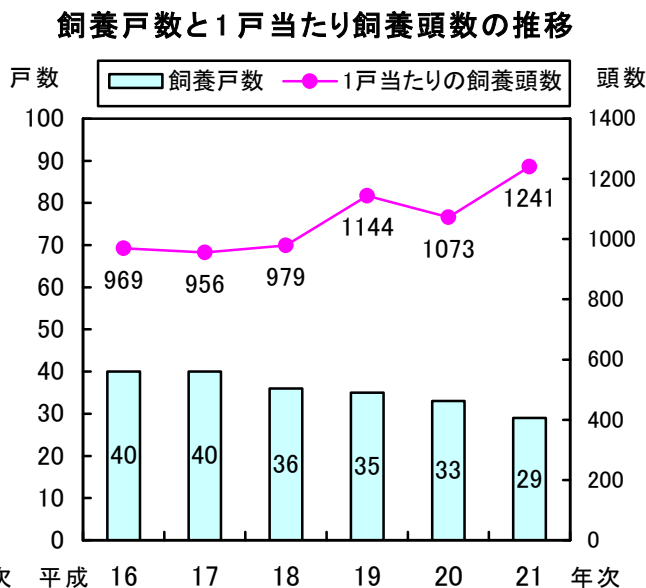
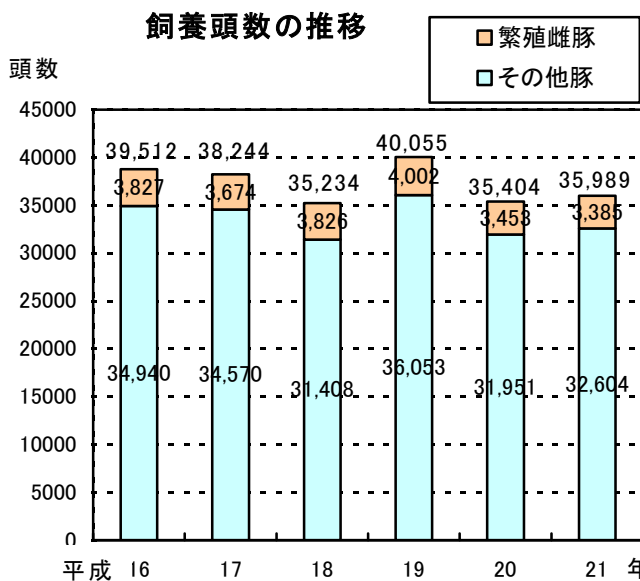
一方、牛の新たな需要拡大策として、過疎の進行に伴う耕作放棄地の増加、林業従事者の減少による植林地管理の困難化に対応するため、土佐褐毛牛の放牧適性を活かした活用方法が模索されています。電気牧柵等を用いて簡易に牛を放牧し、耕作放棄地の雑草管理や植林地内の下草刈り等を牛に行わせることにより、土地管理の省力化を図るといふものです。さらに簡易放牧の実証展示を機に施設園芸農家のグループが牛を飼い始めたという事例もあり、身近に牛のいる風景を作り出すことで景観が保全され、一般県民の方の畜産に対する理解が深まるとともに、新規参入を希望する人への後押しにもつながると期待されています。

飼養戸数及び繁殖牛の減少、さらにそれに起因する肥育もと牛の減少により高値で推移していた子牛価格ですが、枝肉価格下落の影響もあり低下傾向にあります。このような状況のなかで地場産牛肉が生き残るために、生産性の向上から流通・消費拡大までの一体的な取組を推進しています。

3 養豚

平成21年の養豚農家戸数は前年に比べて4戸減の29戸でした。飼養頭数は前年比1.7%増の35,989頭となっており、このうち子取り用雌豚の頭数は前年に比べやや減少し3,385頭です。農家1戸当たりの飼養頭数は1,241頭となりました。

飼料価格の高止まりや枝肉価格の低迷などにより、養豚農家の収益性が低下しているため、生産性の向上やブランド化による有利販売などを推進しています。



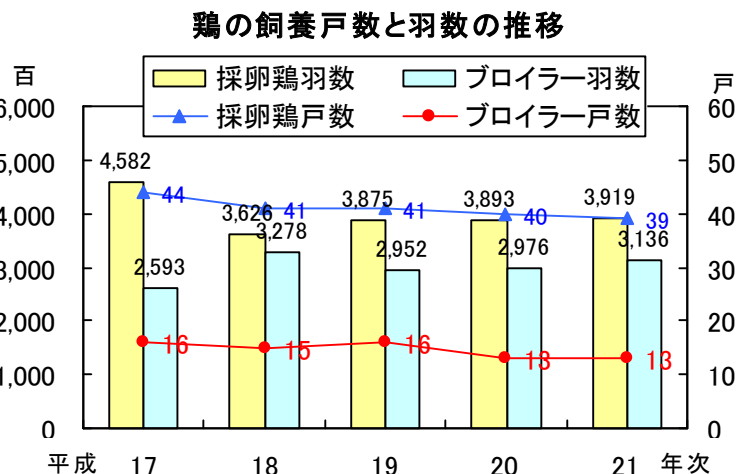
4 養鶏

(1) 採卵鶏

平成 21 年の飼養戸数は前年から 1 戸減の 39 戸、飼養羽数は対前年比 0.7%増の 391,900 羽でした。

(2) ブロイラー

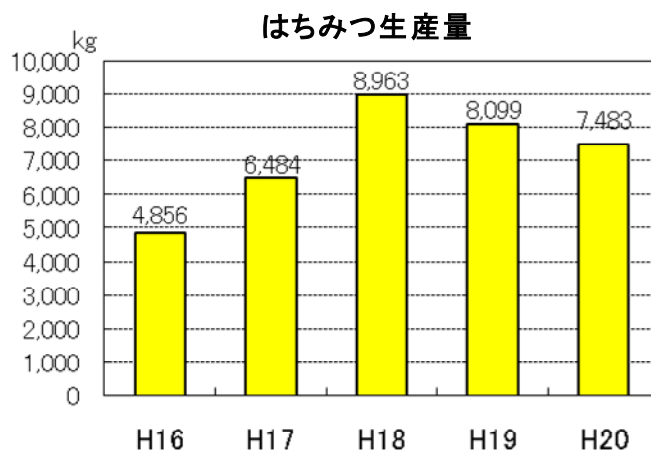
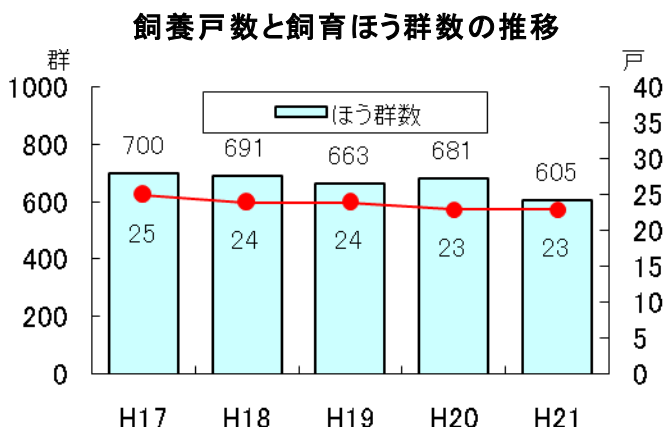
飼養戸数は高齢化・後継者不在により減少しており、平成 21 年は 13 戸となっています。飼養羽数は対前年比 5.4%増の 313,600 羽でした。



5 養蜂

みつばちは、県内では海岸沿いを中心にみかん・レンゲ・くりなどをみつ源として飼育されています。また、受粉用になす・シントウ等の施設園芸農家に貸し出されています。

飼育者の高齢化やみつ源の減少により、養ほう家戸数及びほう群数は減少傾向にあります。



高知県の特産畜産物

1 土佐ジロー

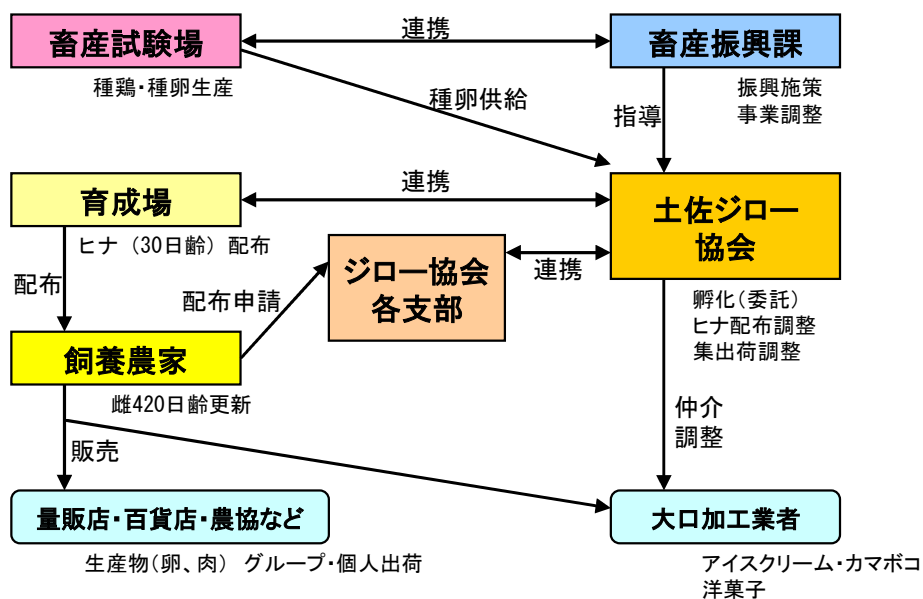
土佐ジローは本県特産の土佐地鶏（雄）とアメリカ原産のロードアイランドレッド種（雌）を交配した卵肉兼用の一代雑種です。

飼養管理は高知県が作成した「土佐ジロー飼養マニュアル」にもとづき、緑餌の給与や放し飼いを飼養条件とし、中山間地域における複合経営の一つとして昭和 61 年度より普及を始め、平成 21 年は、162 戸の農家で、雌 23, 126 羽・雄 7, 591 羽が飼育されています。

土佐ジローの特徴は放し飼いで、牧草や野菜などの緑餌を多く与えているため、卵黄には豊富な栄養が含まれることです。肉は脂肪分が少なく適度な歯ごたえがあり、食肉として高い評価を受けています。

土佐ジローの生産物は主に県内の量販店・農協・道の駅等で販売され、一部は都市部の百貨店にも出荷されています。また、飲食店の食材として供給されるほか、加工製品（蒲鉾・アイスクリーム・洋菓子等）の原材料として利用されています。

土佐ジローの生産推進体制



2 土佐はちきん地鶏

高知県は、日本鶏の主たる 34 品種の中で 8 品種を持ち、全国でも例を見ない「鶏王国土佐」と呼ばれています。土佐はちきん地鶏は、その伝統を背景として、流通業界から新たな肉用鶏がほしいとの要望を受けて、高知県畜産試験場が開発したこだわりの鶏です。

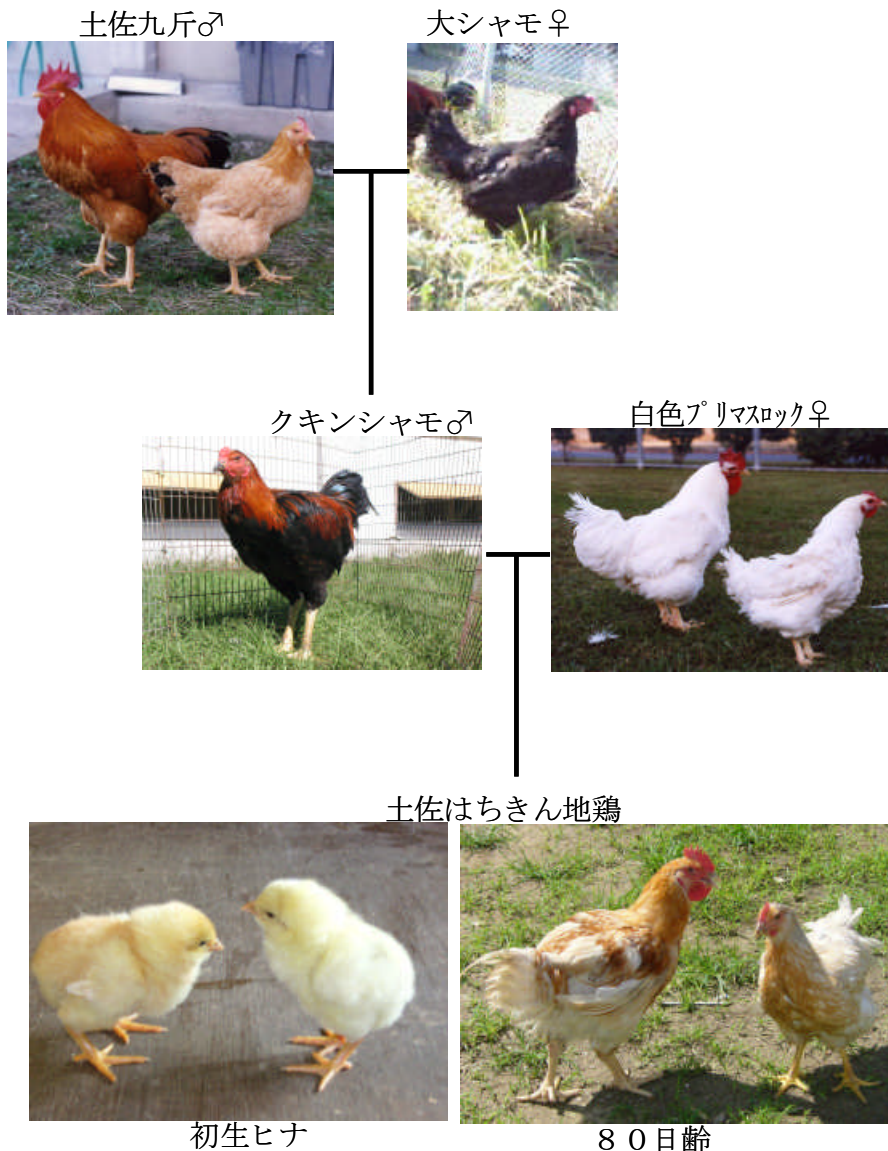
高知県原産の土佐九斤の雄に大シャモの雌を掛け合わせた個体（雄）と、白色プリマスロックの雌を交配して作出しました。生存率が高く飼いやすい肉用鶏で、産業規模の飼育を目指しています。

肉質は市販のブロイラーに比べて脂肪が少なく、ほどよい歯ごたえがあり、冷凍してもドリップ（肉汁漏出）が少ないため、アミノ酸などのうまみ成分が失われにくいという特徴があります。そのため料理専門家などからも高い評価をいただいております。他県の地鶏に負けない素材です。

平成 20 年度から大川村の種鶏・孵卵センターが本格稼働し、生産規模も拡大されたことから、土佐はちきん地鶏振興協議会を母体として、県内外に向けた販路拡大を図り、土佐はちきん地鶏が文字通り本県の特産ブランド鶏として認知されるよう取り組んでいきます。さらに、平成 21 年度は、年間約 7 万羽の生産が予定されており、県内の飲食店、ホテル、量販店等の他、県外の飲食店、量販店等でも販売されています。

土佐はちきん地鶏

◎交配様式



3 土佐褐毛牛（土佐あかうし）

日本の肉用牛である和牛には、黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種の4種類があり、それぞれルーツや改良過程に違いがあります。黒毛和種はほぼ全国的に飼養されていますが、その他の品種は飼養されている地域が限られており、地方特定品種と呼ばれています。

そのうち、土佐褐毛牛は褐毛和種（高知系）といわれるものの通称で、明治時代初頭に役牛として高知県に導入された朝鮮牛をルーツとしています。

一時的に外国の肉用牛であるシンメンタール種を交配したり、もとの朝鮮牛を戻し交配するなどの経過を経て、大正時代後半より集団内の牛から優秀な個体を選抜するという品種内繁殖の方法により改良が進められました。昭和30年代後半以降は、和牛の価値がそれまでの役用から肉用へと転換し、産肉能力を主体とした改良が進められた結果、現在の土佐褐毛牛ができあがりました。

土佐褐毛牛の外見上の特徴は、毛色にあります。褐色の体毛色に加え、目の回り、鼻、角、蹄、しっぽの先などが黒い「毛分け」といわれる特徴は、同じ褐毛和種である熊本系には見られないものです。

夏の暑さや病気に強い、性格がおとなしく飼いやすい、足腰が丈夫で放牧に適しているなど、本県の気候風土や飼養環境によく適応した牛であると言えます。



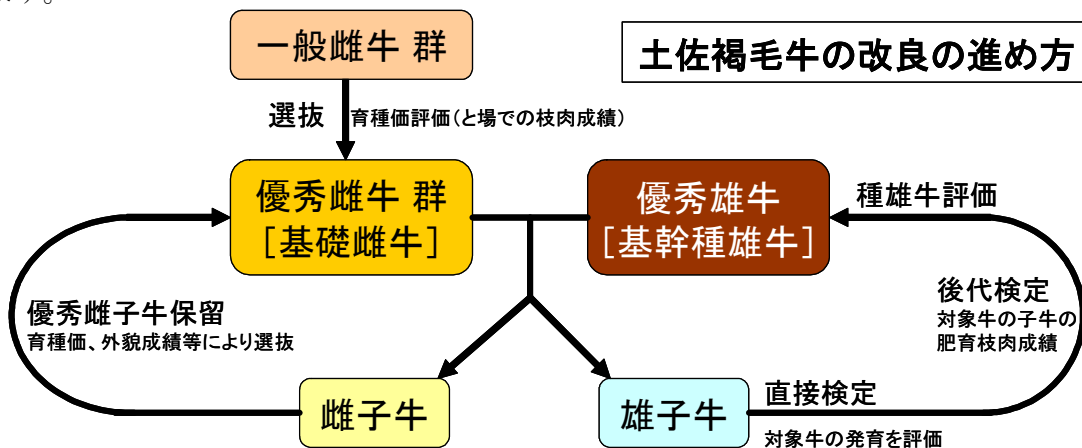
畜産試験場に繋養されている種雄牛「南川山」号
(産肉能力の高さで注目されている期待の種雄牛)



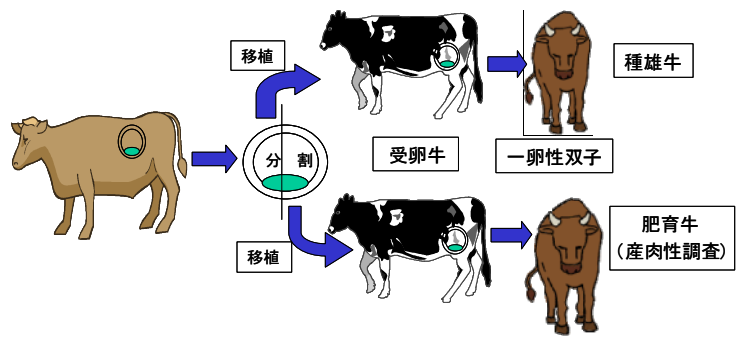
放牧されている土佐褐毛牛の雌牛

現在、土佐褐毛牛の改良は土佐褐毛牛改良増殖推進事業に基づいて県が実施しています。

この事業では優秀な種雄牛づくりを目指して、と畜場における枝肉成績に基づく育種価評価、育種価評価に基づく優秀な雌牛（基礎雌牛）群の選定、その雌牛に優秀な種雄牛（基幹種雄牛）を交配し子牛を生産し、それら雄子牛の中から後代検定によりさらに優秀な種雄牛を選抜する、という手順により改良を進めています。



また、受精卵の移植技術や分割技術を活用して一卵性双子を作出し、優秀な種雄牛づくりを従来よりも短期間で行おうとする試みも進めており、（右図）平成21年12月には待望の一卵性双子が誕生しました。（右写真）



近年のバイオテクノロジー技術の進展に伴い、雌牛側からの改良も進めています。優秀な雌牛から採取した受精卵を移植して優秀な個体を短期間に多頭数得ようとする受精卵移植技術は、県内でも徐々に定着してきました。特に、土佐褐毛牛の改良と増殖とを併せて行うため、乳用牛への土佐褐毛牛受精卵の移植が行われています。そのほか体外授精、受精卵分割、性判別技術、クローン技術等の関連技術により、雌雄の産み分けや優秀な個体の生産、増産が可能になってきています。



一方、飼養頭数の減少に加え、産肉能力を重視した特定血統の種雄牛に交配が集中することにより、牛群の遺伝的多様性が失われる（集団の遺伝的なサイズが小さくなる）ことが懸念されています。土佐褐毛牛の改良のためには、従来の産肉能力に加え、血統や種牛能力（強健性、繁殖性、泌乳性、飼料利用性など種牛としての能力の総称）においても特色ある牛群を造成していく必要があります。そのため、地域に残っている育種素材となる雌牛を発掘し、系統を考慮に入れた指定交配を継続していくことなどの長期的な視野に立った系統再構築の取り組みを実施しています。

特徴ある和牛である土佐褐毛牛をPRするため、平成21年に土佐和牛ブランド協議会により、「土佐あかうし」ブランドが新たに立ち上がりました。高知県の和牛ブランド「土佐和牛」のうち、高知生まれ高知育ちの土佐褐毛牛は「土佐あかうし」として流通され、サシと赤身のバランスの良さが美味しい牛肉として注目されています。皮下脂肪が薄く可食部分が多い、霜降りが適度に入りヘルシーである、赤肉部分に旨味があり、脂のクレが良くのどごしの風味がよい、などが特徴としてあげられます。



「土佐あかうし」
ロース・モモのセット



「土佐あかうし」サーロインのタリアータ
花ニラと文旦のマルメラータ添え
(ヴィノテカサクラ・榎本隆二シェフ作)

牛乳・食肉・鶏卵流通

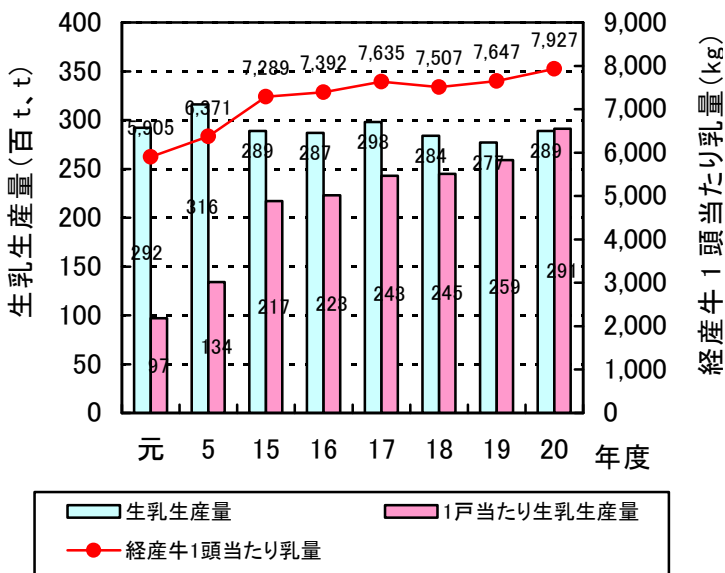
1 牛乳

生乳生産量は平成8年をピークに減少傾向を示していましたが、近年はほぼ横ばいで推移しています。一方、1戸あたりの生乳生産量および経産牛1頭当たり乳量は着実に増加しています。県内で生産された生乳のうち、約40%は県内の乳業工場で処理され、残りの約60%は県外（主に香川県、愛媛県）の乳業工場で処理されています。また、県内で処理される生乳のうち、約5.3%は県外（主に愛媛県、宮崎県）から移入されています。

本県の牛乳・乳製品の年間消費量は67,565トンと推計され、そのうち県内産牛乳の割合は約40%です。また、飲用牛乳の消費量は年間約26,766トンと推計され、そのうち約7.6%は学校給食用牛乳として消費されています。

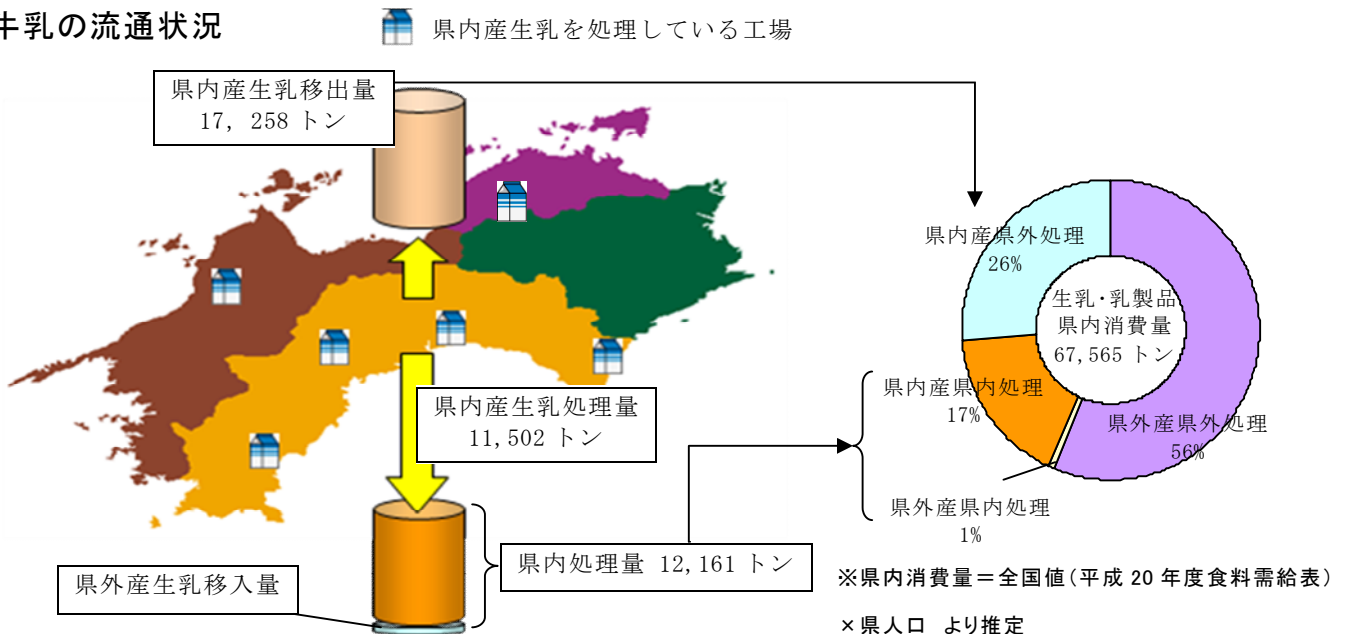
牛乳の消費量を高めるため、高知県牛乳普及協会が中心となって、各種イベントや料理コンクール、配布物等で牛乳の栄養価や機能性をPRし、安全、安心な県内産牛乳の消費拡大を推進しています。

生乳生産量と経産牛1頭当たりの乳量の推移



ミルクカーニバルにおける消費拡大

牛乳の流通状況



2 食肉

(1) 牛肉

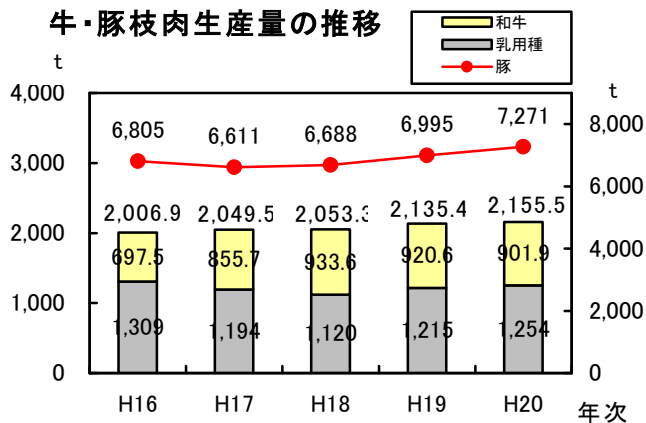
牛の枝肉生産量は、近年は年間 2,000t 程度で推移しており、平成 20 年は前年比 0.9% 増の 2,155.5t でした。

また、土佐和牛（去勢）の格付成績は A-3 以上の割合が 55~66% で推移しており、平成 20 年度は A-3 以上の割合が 55.4% でした。

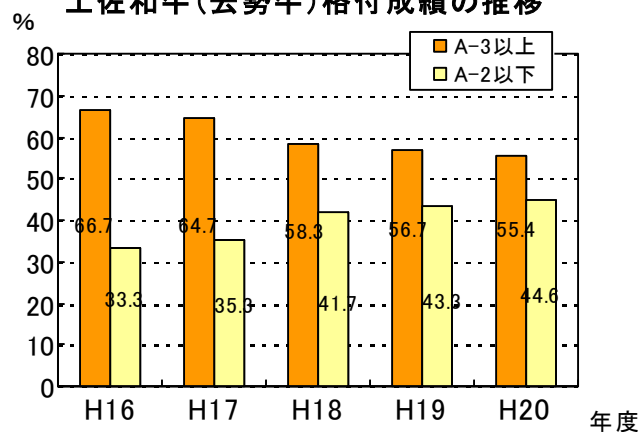
(2) 豚肉

枝肉生産量は、近年は年間 7,000t 弱で推移しており、平成 20 年は前年比 3.9% 増の 7,270.8t でした。

牛・豚枝肉生産量の推移



土佐和牛(去勢牛)格付成績の推移

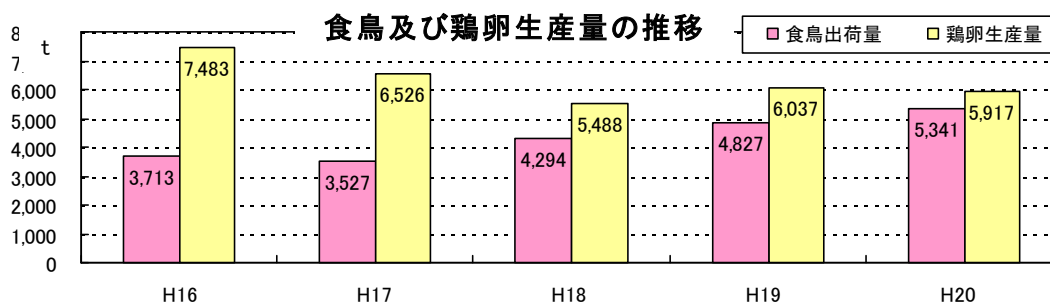


(3) 食鳥肉

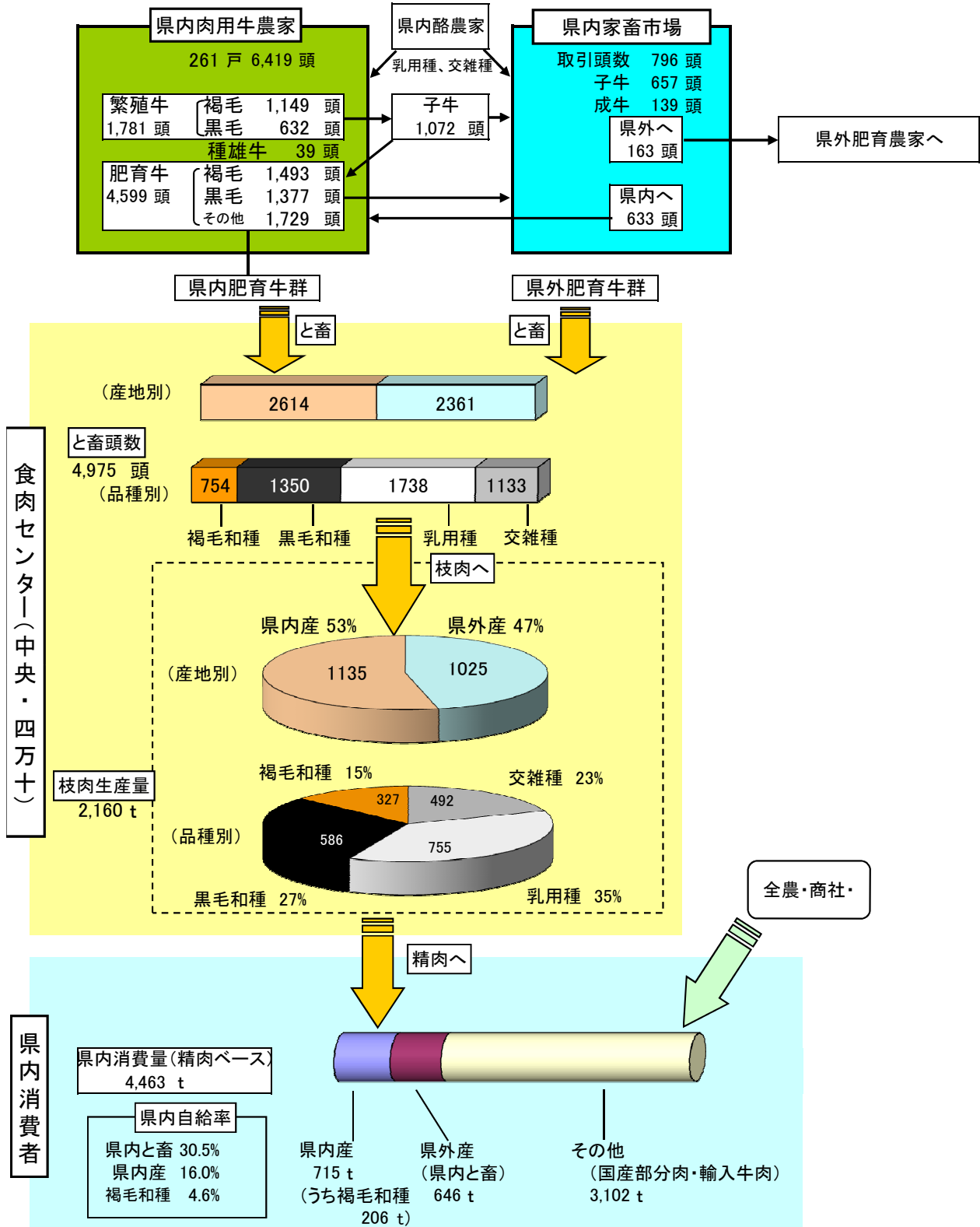
食鳥出荷量は、近年は年間 4,000t 強で推移していましたが、平成 20 年は前年比 10.6% と大幅に増加し、5,341t でした。

3 鶏卵

鶏卵生産量は、平成 16 年以降は減少傾向で推移していましたが、平成 20 年は前年比 2.0% 減の 5,917t でした。



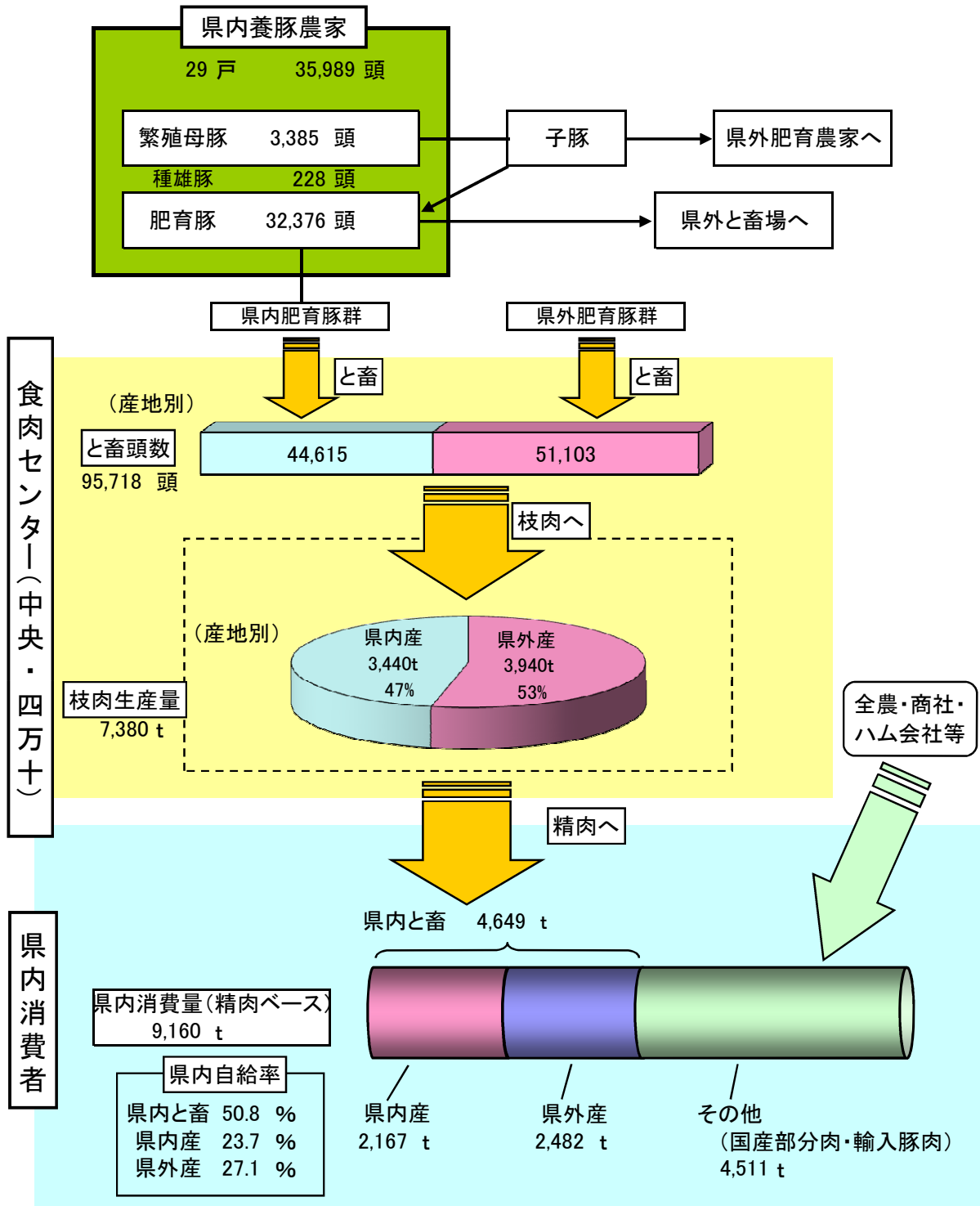
平成20年度 高知県内牛肉流通状況



関連事項等

肉用牛農家戸数頭数＝平成21年2月1日頭羽数調査
 家畜市場頭数＝平成20年次家畜市場取引成績の概要
 子牛生産頭数＝平成20年度子牛登記実績頭数
 と畜頭数＝食肉流通統計(農林水産省)および県畜産振興課(両食肉センター)調べ
 枝肉生産量＝食肉流通統計(農林水産省)より算出(褐毛和種については全農高知扱い平均枝肉重量より算出)
 県内消費量＝推定値:年間1人あたり消費量5.7kg(全国値:平成20年度食糧需給表)×県人口782,913人
 枝肉→精肉＝63%として算出

平成20年度 高知県内豚肉流通状況



関連事項等

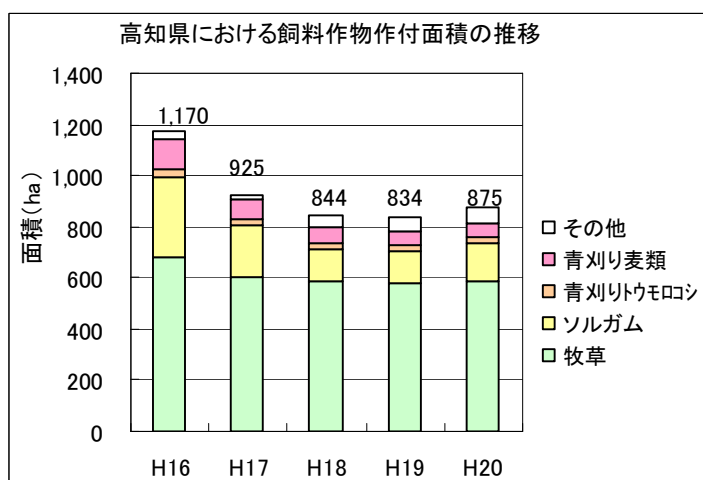
養豚農家戸数頭数＝平成21年2月1日頭羽数調査
 と畜頭数＝県畜産振興課(両食肉センター)調べ
 枝肉生産量＝食肉流通統計(農林水産省)より算出
 県内消費量＝推定値:年間1人あたり消費量11.7kg(全国値:平成20年度食糧需給表)×県人口782,913人
 枝肉→精肉＝63%として算出

飼料

1. 自給飼料

自給飼料の生産は、海外情勢に左右されない畜産経営を築く基礎であり、同時に資源循環型畜産の実現や、食料自給率の向上を図るうえでも重要な役割を果たしています。農家戸数の減少や飼養家畜の多頭化に伴う労働力不足等により、飼料作物作付面積は減少傾向で推移していましたが、飼料価格の高騰対策として、平成20年度は飼料生産が増加に転じています。

県では、自給飼料増産のため、これまで行ってきた個々の畜産経営体による生産に加え、水田や耕作放棄地など飼料生産基盤の確保、耕畜連携による飼料生産など、新たな飼料生産の取組みを推進しています。



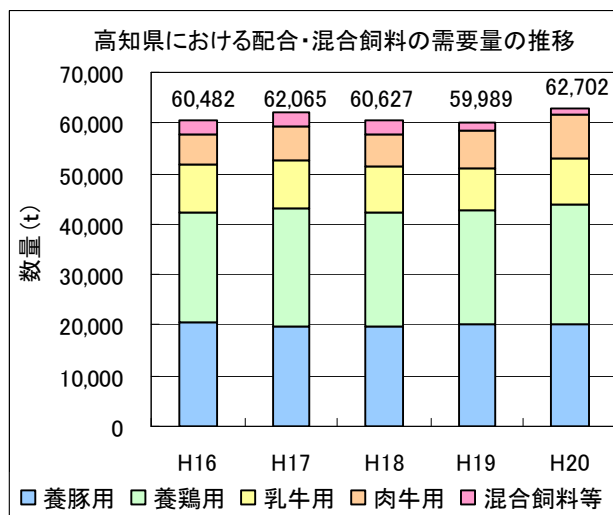
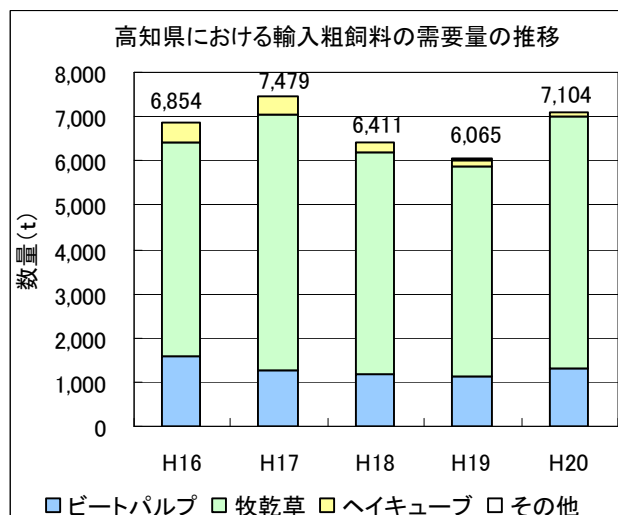
農林水産統計データ（農水省 HP）より



耕畜連携による稲WC Sの生産（高知市）

2. 流通飼料

高知県における流通飼料の需要量は、粗飼料で減少傾向、配合・混合飼料では横ばいで推移しています。近年、原油価格の高騰やバイオエタノールの需要拡大等により、流通飼料の価格が高騰し、畜産経営に大きな影響を与えています。県では、飼料費削減による経営改善を図るため、自給飼料の生産拡大と同時に、エコフィード等新たな飼料の活用について検討を進めています。



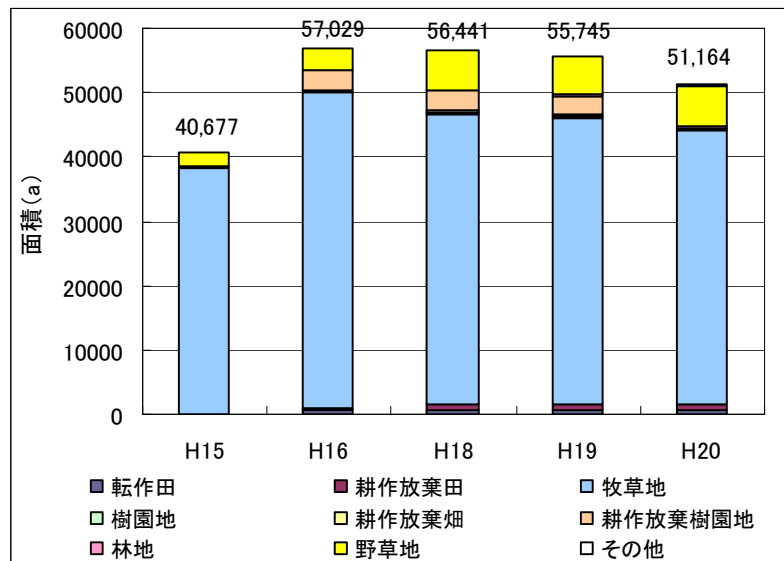
高知県流通飼料実態調査より

3. 日本型放牧

(1) シバ草地

高知県では、昭和 31 年頃から急峻な地形を活かした放牧技術として、シバ草地の放牧に取り組んできました。畜産試験場を中心にポット苗等によるシバ草地の造成技術や維持管理の方法、特性、適応地域など様々な調査研究を行い、平成 6 年に「シバ草地造成マニュアル」を作成するとともに、技術を体系化して県内外への普及に努めています。

高知県における放牧面積の推移



H21 年度高知県放牧実態調査より

高知県の放牧地 (平成 21 年度)

単位: 牧場、ha

	放牧地		うちシバ草地	
	牧場数	面積	牧場数	面積
乳用牛	13	144.1	6	95.5
肉用牛	53	172.2	12	76.4
公共牧場	4	195.3	1	17.0
合計	70	511.6	19	188.9

高知県放牧実態調査より



(室戸市)

(2) 簡易放牧の推進

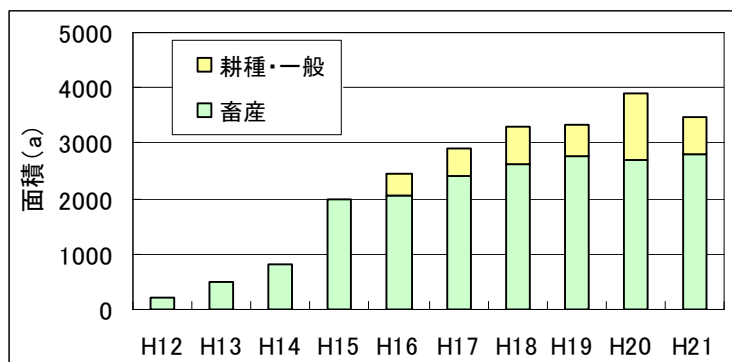
高知県では、平成 12 年度から粗飼料の確保や飼養管理労力の軽減を図るため、電気牧柵を使った簡易放牧に取り組んでいます。当初は畜産農家による取組みが主でしたが、近年では耕種農家や市町村による取組みが見られ、耕作放棄地の解消や林野等の有効活用といった点でも効果を発揮しています。

耕作放棄地における簡易放牧 (土佐清水市)



高知県の簡易放牧面積の推移

単位: ha



高知県畜産振興課調べ



農地の再生にも貢献!

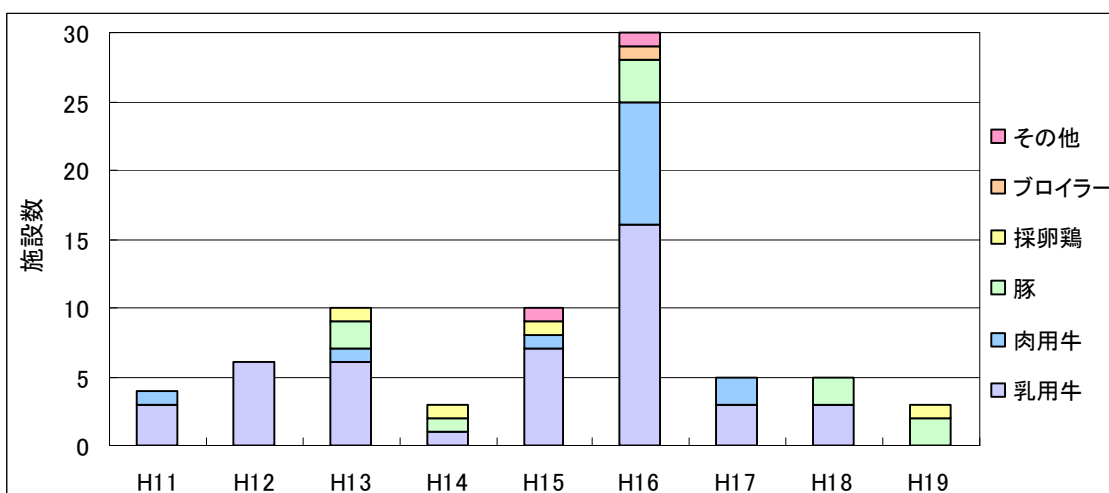
環 境

1. 家畜排せつ物の適正処理

平成 11 年に家畜排せつ物法が施行されたことを受け、畜産環境対策を推進するため、「高知県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画 (H12 策定)」に基づき、県や市町村、農業団体、農業者が一体となって家畜排せつ物処理施設等を整備してきました。その結果、平成 19 年には家畜排せつ物法に基づく管理基準は、ほぼ全ての法対象農家において遵守できる状況となっています。

高知県における家畜排せつ物処理施設の整備状況

単位：件



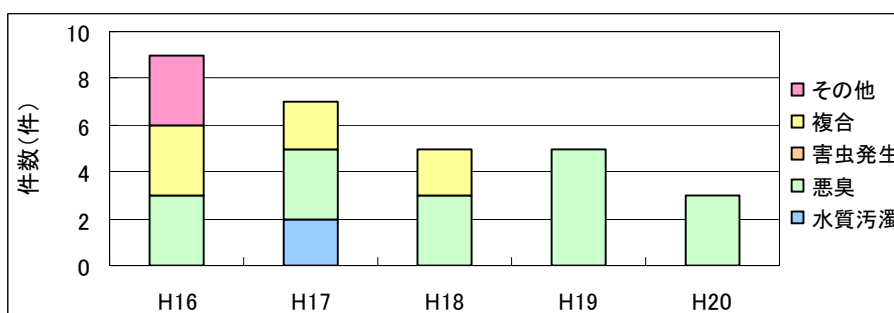
高知県畜産振興課調べ

2. 畜産公害対策

家畜排せつ物処理施設の整備や適正処理を行った結果、畜産公害に関する苦情件数は減少しました。しかし、悪臭に関する苦情は依然として多く、市街化が進む昨今、対処法が最も難しい問題となっています。県では、ガス検知管による簡易検査や、事業場に合った臭気緩和策の助言など、地域と調和した畜産の発展に努めています。

高知県における畜産公害に関する苦情件数の推移

単位：件



高知県畜産振興課調べ

3. 家畜ふん堆肥の生産と利用

家畜排せつ物処理施設による適正処理が可能になった現在では、より良質な家畜ふん堆肥の生産と、有機質資源としての利活用の促進が重要な課題となっています。高知県で生産される家畜ふん堆肥は、露地野菜や水稻を中心に約 43,000 t／年が耕種農家や家庭菜園で利用されていますが、活用されていない家畜ふん堆肥も見られます。今後も良質堆肥の生産と PR を進め、耕種農家や地域との連携を強化することで利用拡大を図ります。

切り返し式堆肥舎での生産



強制発酵施設(スクープ式)での生産



耕種農家による利用 (左：ニラ、中：ナス、右：水稻)



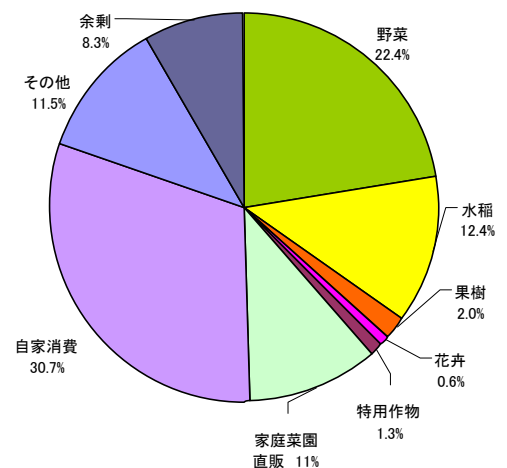
高知県における家畜ふん堆肥の生産量及び利量 単位：t/年

	戸数	生産量	利用量	余剰量
乳用牛	94	44,162	40,290	3,872
肉用牛	70	13,407	12,344	1,063
豚	18	6,301	4,233	2,068
採卵鶏	15	4,121	4,091	30
ブロイラー	12	6,488	6,088	400
堆肥センター	7	14,094	14,058	36
合計	—	88,573	81,104	7,469

調査対象：家畜排せつ物法の対象となる農家

高知県畜産振興課調べ (H19 年度)

高知県における家畜ふん堆肥の利用内訳



家畜防疫・衛生

家畜防疫・衛生については、県内に支所を含めて7カ所ある家畜保健衛生所が、家畜伝染病予防法に基づいて活動を行っています。

それぞれの家畜保健衛生所では、日ごろから家畜に病気をひき起こす病原体（細菌・ウイルス・寄生虫など）の検査や、定期的に農家を巡回して家畜の健康状態を確認することにより、各種の伝染病の発生予防や、まん延防止に必要な措置を講じています。また、生産される肉・乳・卵などの安全性の確保や生産性向上のための調査、生産者の衛生意識向上のための普及・啓発活動をしています。

平成11～20年の、家畜伝染病予防法で規定されている疾病の発生状況は下表のとおりです。

今までのところ、本県では高病原性鳥インフルエンザや牛海綿状脳症（BSE）など、全国的に大きな問題となっている病気は発生していません。しかし、人や物の交流が世界的に広がるなか、今後、国内や県内でこれまで発生が確認されていなかった疾病についても侵入が危惧されるため、衛生的な飼養管理の徹底を指導するなど、疾病の発生防止対策の更なる強化に努めています。

【高知県における家畜の監視伝染病の発生状況】

	動物種	病名	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	
家畜伝染病	牛	ヨーネ病		2	8	8	3	12	7	1	5	3	
	豚	流行性脳炎		2				1	2	2			
	めん羊	ヨーネ病		4									
	山羊	ヨーネ病		2									
	みつばち	腐そ病			38		24						
届出伝染病	牛	牛白血病		1	1	1	5	2	4		4	4	
		破傷風	1			1	2		1	2			
		サルモネラ症	1			3							
		ネオスポラ症					1						
	馬	馬インフルエンザ*									3		
	豚	サルモネラ症							2				1
		豚丹毒									2	5	22
	鶏	鶏痘	100	101		1		2					
		マレック病	140	101	1			1	1	13			6
		伝染性ファブリキウス嚢病								1			
		鶏白血病							2			1	
		ロイコチゾーン症						1					
	犬	レプトスピラ症	12	2	2	1	1	1	3	2	2	1	
	みつばち	パロア病						1					1
チョーク病				4		1							
ノゼマ病								1		1			

※単位：牛・めん羊・山羊・豚・犬 は「頭」、鶏は「羽」、みつばちは「群」

高病原性鳥インフルエンザ対策

1 国内における発生の概要

- 国内では、平成16年1月に79年ぶりの発生が確認されました。その後、これまでに8府県56例の発生がありましたが、迅速な防疫対応により全て終息し、国際獣疫事務局（OIE）が定める清浄国に復帰しています。

高病原性鳥インフルエンザの国内発生状況

発生確認年月日	鳥種（経営種別など）	発生場所	処分羽数	亜型	備考	
H16	1月12日	鶏（採卵）	山口県 阿武郡阿東町	約3万5千	H5N1	79年ぶりの発生
	2月17日	愛玩鶏（チャボ、あひる）	大分県 玖珠郡九重町	14（チャボ13、あひる1）	H5N1	
	2月27日	鶏（採卵）	京都府 船井郡丹波町	約22万5千	H5N1	近隣農場のため、一体的に防疫措置
	3月5日	鶏（ブロイラー）	京都府 船井郡丹波町	約1万5千	H5N1	
H17	6月26日～12月25日	鶏（採卵）	茨城県日立市（1例目）を含む疫学関連農場（41例） ・茨城県（40例） ・埼玉県（1例）	約578万 （うち自主淘汰約242万）	H5N2	・弱毒性 ・ウイルス分離は9例のみ
H19	1月13日	鶏（ブロイラー種鶏）	宮崎県 宮崎郡清武町	約1万2千	H5N1	
	1月25日	鶏（ブロイラー）	宮崎県 日向市	約5万3千	H5N1	
	1月29日	鶏（採卵）	岡山県 高梁市	約1万2千	H5N1	
	2月1日	鶏（採卵）	宮崎県 児湯郡新富町	約9万3千	H5N1	
H21	2月27日	うずら（採卵）	愛知県 豊橋市（7例）	約160万	H7N6	・H7N6亜型による国内初の発生 ・弱毒性 ・ウイルス分離は3例のみ

2 高知県における対策（家畜保健衛生所の活動）

- これまでに本県での発生はありません。
- 発生予防と万一の発生時の早期発見・早期通報体制を確立するために、以下のことを行っています。
 - ①農場への立入検査

定期巡回等を通じ、家きん農場に対して随時立入検査を行い、異常の有無を確認するとともに、衛生的な飼養管理を徹底するよう指導しています。
 - ②報告の徴求

100羽以上の家きんを飼養している農場から、毎月1回、飼養羽数と異常の有無について報告をいただいています。また、万一異常があった場合には、直ちに報告をいただくよう徹底しています。平成20年度末の対象農家戸数は98戸です。
 - ③モニタリング検査

県内の家きん農場に対し、以下の検査を実施しています。

 - ・定点モニタリング：毎月、1家畜保健衛生所あたり3農場以上についてウイルス分離検査と抗体検査を実施。
 - ・強化モニタリング：年間で、県内26農場について抗体検査を実施。
- 発生した場合は、発生農場における飼養鶏の処分や施設・器材の消毒を行うとともに、発生農場周辺の農場及び養鶏関連施設に対して移動制限措置や検査実施などのまん延防止対策を行います。

牛海綿状脳症（BSE）対策

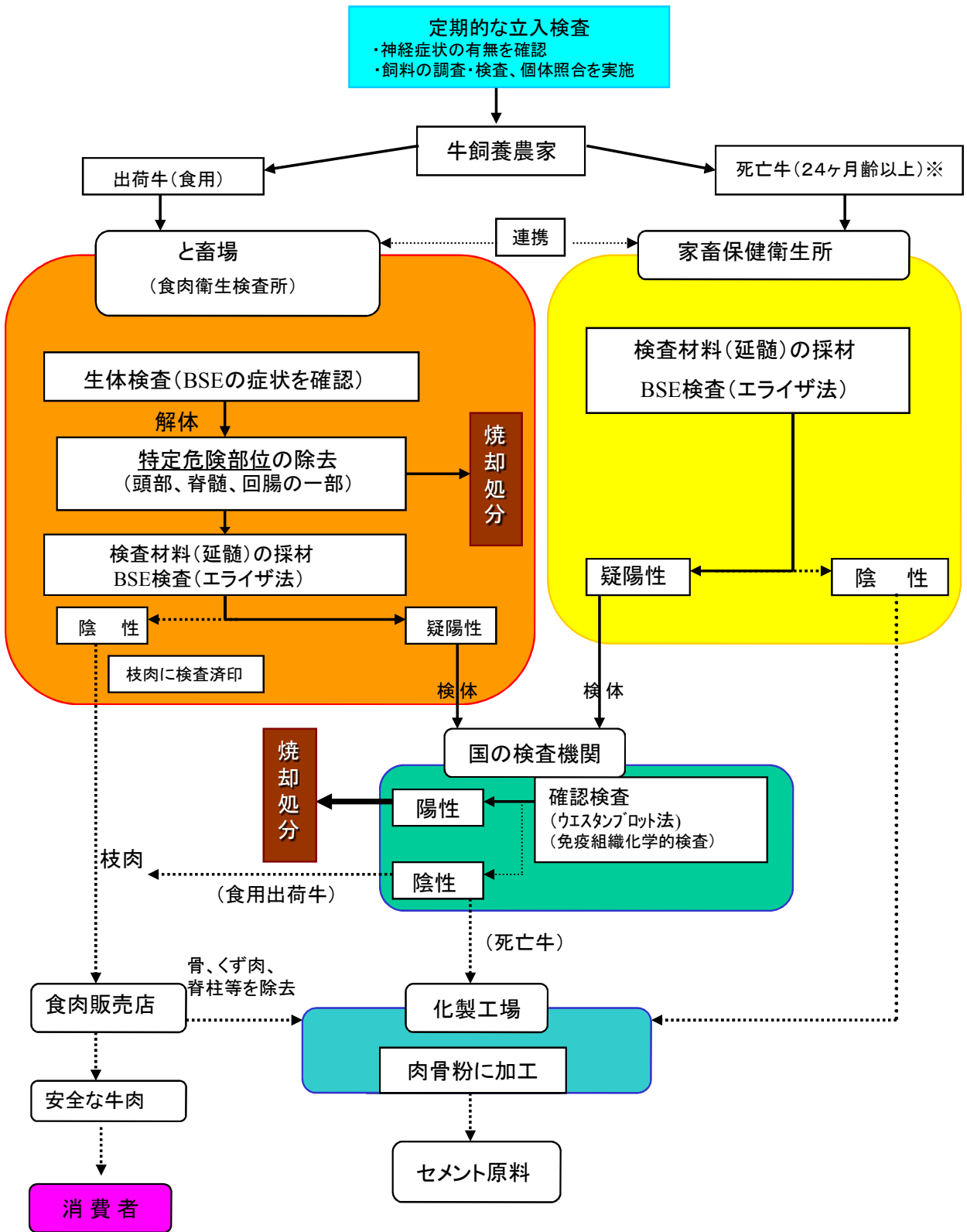
1 日本国内のBSE対策

- 国内では、平成13年9月10日にBSEの発生が初めて確認されました。
- BSEの原因である異常プリオンが含まれると考えられる、牛の肉骨粉を原料とする家畜飼料の製造・出荷は、平成13年10月15日から禁止されています。
- 食肉処理される牛について
 - ・平成13年10月18日以降は、食肉衛生検査所で全頭検査を実施し、陰性が確認された牛の肉だけが流通しています。
 - ・20ヶ月齢以下の牛については、平成17年8月1日以降、法律による義務付けが無くなりましたが、本県を含め多くの自治体が継続して全頭検査を行っています。
 - ・BSEの原因である異常プリオンが、多く蓄積すると考えられる部分（「特定部位」といいます。具体的には、舌と頬肉以外の頭部、脊髄及び回腸の一部です。）は、全てと畜場で取り除かれ、焼却処分されています。
 - ・脊柱を含む骨やくず肉などは、化製場で肉骨粉にされた後、セメント原料として利用されます。
- 農場で死亡した牛について
 - ・平成15年4月1日から、家畜保健衛生所が24ヶ月齢以上の死亡牛全頭についてBSE検査を実施しています。
 - ・BSE陽性となったものは、全て焼却処理されます。
 - ・BSE陰性となったものは、化製場で肉骨粉にされた後、セメント原料として利用されます。家畜の飼料などに利用されることはありません。

2 高知県のBSE対策

- 食肉処理される牛について
 - ・食肉衛生検査所で全頭検査を実施しています。平成20年度は4,975頭の検査を行い、全て陰性でした。
- 農場にいる牛について
 - ・家畜保健衛生所または民間の獣医師が、県内の牛を飼養している全ての農場に、少なくとも3ヶ月に1度立入検査を行い、全頭についてBSEの症状の有無を確認しています。
- 農場で死亡した牛について
 - ・国の対策どおり農場で死亡した牛（24ヶ月齢以上）の全頭検査を行っています。平成20年度は216頭の検査を行い、検査結果は全て陰性でした。

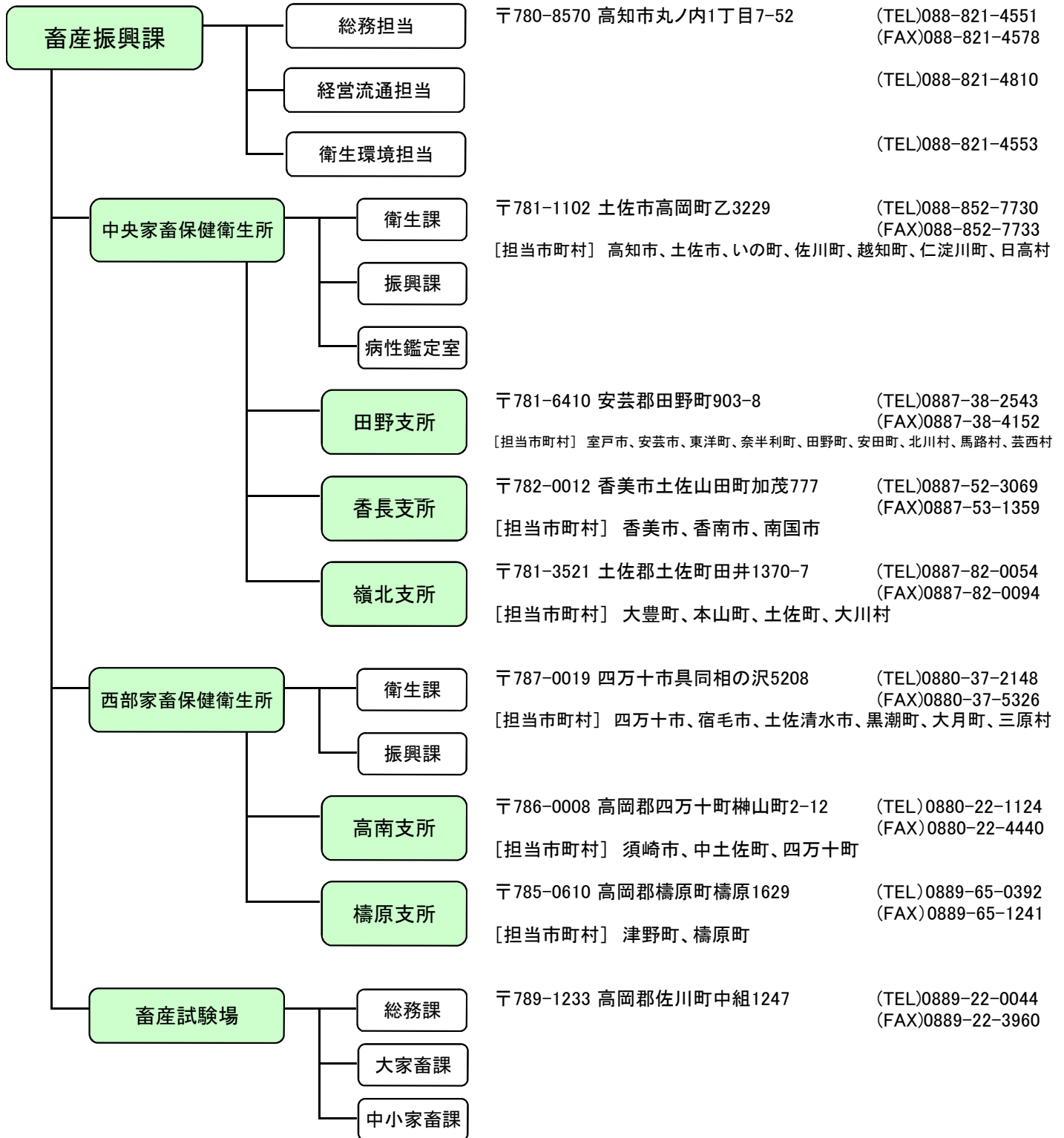
牛海綿状脳症（BSE）対策フロー <高知県の体制>



※ 牛海綿状脳症対策特別措置法では、24ヶ月齢以上の牛が死亡した場合にBSE検査を実施することとされています。

高知県の畜産関係機構

農業振興部



畜産関係団体

1 農 協

名 称	所在地	代 表 者	電話番号	FAX番号
全国農業協同組合連合会高知県本部 畜産課	〒780-0086 高知市海老ノ丸13-58	尾崎 真一	088-883-4413	088-882-2123
高知県農業協同組合中央会	〒780-8511 高知市北御座2-27 JA高知ビル	山崎 實樹助	088-802-8030	088-804-3180
高知県養蜂農業協同組合	〒789-1204 高岡郡佐川町加茂645	藤岡 信雄	0889-22-7103	0889-22-7103
高知市酪農農業協同組合	〒780-0850 高知市丸の内2丁目8-1	島崎 進一	088-875-1973	088-875-1973
土佐町酪農協同組合	〒781-3521 土佐郡土佐町田井1461-2	宮本 文弘	0887-82-0088	0887-82-1060
高知県食鶏農業協同組合	〒781-5103 高知市大津乙1755-1	窪田 敏宏	088-866-2898	088-866-2772

2 関 係 団 体

名 称	所在地	代 表 者	電話番号	FAX番号
高知県農業共済組合連合会	〒780-0861 高知市升形10-5	小松 秋夫	088-822-4346	088-822-4349
財団法人 高知県農業公社	〒780-0844 高知市永国寺町6-13	八百屋市男	088-823-8618	088-824-8593
財団法人 高知県学校給食会	〒780-0087 高知市南久保16-25	川島 博海	088-883-8550	088-883-3855
財団法人 高知県競馬施設公社	〒780-0850 高知市丸の内1-7-52 競馬対策課	田中正澄	088-821-4809	088-821-4519
財団法人 高知県畜産・競馬振興会	〒788-0052 宿毛市和田1400-1	山下 幸雄	0880-62-0020	0880-63-5559
社団法人 高知県肉用子牛価格安定基金協会	〒781-2110 吾川郡いの町1879-9	田中正澄	088-892-4830	088-892-4840
社団法人 高知県配合飼料価格安定基金協会	〒781-2110 吾川郡いの町1879-9	小川 清之	088-893-5881	088-893-5881
社団法人 高知県獣医師会	〒780-0833 高知市南はりまや町1-16-22	宮地 忠義	088-885-7002	088-880-3153
社団法人 高知県畜産会	〒781-8125 高知市五台山5015-1	尾崎 真一	088-883-8161	088-880-0024
社団法人 高知県中央食肉公社	〒780-0086 高知市海老ノ丸13-58	尾崎 真一	088-883-3831	088-883-3841
社団法人 高知県肉用牛協会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	尾崎 真一	088-883-8161	088-880-0024
社団法人 高岡郡高原畜産センター	〒785-0502 高岡郡津野町北川2281-4	中平 紀善	0889-62-3303	0889-62-2381
社団法人 津野山畜産公社	〒785-0695 高岡郡橋原町橋原1444-1	中越 武義	0889-65-1111	0889-40-2010
社団法人 嶺北畜産協会	〒781-3617 長岡郡本山町寺家241	西村 行雄	0887-82-0926	0887-82-0826
高知県 家畜商業協同組合	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	中越 健一郎	088-883-8161	088-880-0024
高知県 草地飼料協会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	中越 武義	088-883-8161	088-880-0024
高知県 家畜人工授精師協会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	浜口 承一	088-883-8161	088-880-0024
高知県 酪農連合協議会	〒780-0086 高知市海老ノ丸13-58 全農畜産課内	岡本 泰明	088-883-4413	088-882-2123
幡多地区 酪農組合連合会	〒787-0025 四万十市中村一条通4-5-23	岸本 憲和	0880-34-1998	0880-34-2037
高知県 牛乳普及協会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	坂井 満夫	088-880-5363	088-880-5362
高知県 学校給食用牛乳供給事業推進協議会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	坂井 満夫	088-880-5363	088-880-5362
高知県 肉用牛研究会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	細川 茂幸	088-883-8161	088-880-0024
高知県 養豚協会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	村上 義満	088-883-8161	088-880-0024
高知県 養鶏協会	〒783-0053 南国市国分1305-5 ヤマサキ農場内	会長代行 山崎吉泰	088-862-0135	088-862-0134
高知県 食肉事業協同組合連合会	〒780-0086 高知市海老ノ丸13-58	三谷 勝義	088-884-5477	088-884-5477
四万十市営 食肉センター	〒787-0017 四万十市不破出来島2058-1	毛利 富安	0880-37-4315	0880-37-4325
高知県 ホルスタイン改良協議会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	中島 俊二	088-883-8161	088-880-0024
高知県 土佐ジロー協会	〒781-8125 高知市五台山5015-1	若松 和人	088-883-8335	088-883-8335
高知県 競馬組合	〒781-0271 高知市長浜宮田2000	片岡 万知雄	088-841-5123	088-841-5130
高知県食肉公正取引協議会	〒781-8125 高知市五台山5015-1 畜産会内	三谷 勝義	088-884-8260	088-883-4046
高知県土佐はちきん地鶏振興協議会	〒781-3704 土佐郡大川村朝谷26	森田 良一	0887-84-2201	0887-84-2202

家畜の飼養農家戸数・頭羽数の推移 (各年とも2月1日現在の数字)

	乳用牛						肉用牛						豚						採卵鶏(羽数:100羽)						ブロイラー(羽数:100羽)					
	H19.2.1		H20.2.1		H21.2.1		H19.2.1		H20.2.1		H21.2.1		H19.2.1		H20.2.1		H21.2.1		H19.2.1		H20.2.1		H21.2.1		H19.2.1		H20.2.1		H21.2.1	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数
東洋町						1	×	1	×	1	×																			
室戸市	2	574	1	×	1	×	9	116	8	104	8	105	1	×	1	×	1	×												
奈半利町						3	55	3	68	3	77	4	7,026	4	5,422	3	5,751							1	×	1	×	1	×	
田野町	2	125	2	111	2	105	2	295	2	292	2	282																		
安田町	1	×	1	×	1	×	2	104	2	148	3	204																		
北川村						2	87	1	×	1	×								1	×	1	×	1	×						
馬路村																														
安芸市	5	219	4	185	4	203	4	17	4	15	4	18													1	×				
芸西村					1	×	1	×											1	×	1	×	1	×						
香南市	7	263	7	263	7	243	1	×										1	×	1	×	2	325							
香美市	7	451	7	386	7	340	1	×	1	×	1	×						1	×	1	×	1	×							
南国市	25	717	24	722	22	691	3	370	3	375	3	351	1	×	1	×	1	×	6	672	5	716	5	686	2	78	2	74	2	79
大豊町	1	×					6	62	7	69	7	70							3	16	3	16	2	9						
本山町	1	×	1	×	1	×	24	304	24	312	23	297											1	×						
土佐町	7	234	6	213	6	210	45	773	45	711	45	875							3	37	3	33	3	33						
大川村							5	268	5	232	5	210							2	9	2	6	3	13						
高知市	6	533					3	78																						
(旧)春野町	1	×	6	571	6	655	2	16	5	35	5	38	3	241	3	243	2	137	2	1,771	3	1,750	2	1,820	3	200	2	140	2	142
いの町	1	×	1	×	1	×	13	161	13	133	13	143																		
土佐市	3	107	3	101	3	98	1	×											1	×	1	×	1	×						
日高村							1	×	1	×	1	×																		
仁淀川町							20	125	17	124	16	109							1	×	1	×	1	×						
越知町							6	135	7	134	5	139	1	×	1	×	1	×												
佐川町	7	346	6	346	6	331	12	180	9	187	9	203	1	×	1	×	1	×	2	35	1	×	1	×	1	×				
須崎市	2	33	2	35	2	30																			2	290	2	270	2	270
中土佐町	1	×	1	×	1	×	5	276	4	324	4	290												1	×	1	×	1	×	
四万十町	16	664	12	605	10	535	24	1,675	23	1,753	21	1,792	13	20,824	12	18,223	11	19,761	4	322	4	309	4	303	2	420	2	416	2	420
津野町	1	×	1	×	1	×	19	123	18	120	18	130							2	68	2	55	2	54	1	×	1	×	1	×
禰原町							19	235	18	273	17	289																		
黒潮町							1	×	1	×	2	18							1	×					1	×	1	×	1	×
四万十市	4	161	4	152	4	158	6	66	7	89	7	111	3	2,426	2	347	1	73	4	253	4	286	4	287						
三原村							3	67	3	64	3	50	1	×	1	×	1	×	4	20	3	18	3	16						
宿毛市	6	331	5	332	5	328	14	319	16	303	13	279	3	4,912	3	6,359	3	5,407	1	×	1	×	1	×						
大月町	7	185	7	169	7	166	7	31	8	35	9	28	2	1,121	2	1,103	2	1,183	1	×	1	×			1	×	1	×	1	×
土佐清水市							13	330	13	347	12	286	2	1,016	2	925	2	1,115			2	2	1	×						
県計	113	5,526	101	5,058	98	4,950	278	6,339	269	6,288	261	6,419	35	40,055	33	35,404	29	35,989	41	3,875	40	3,893	39	3,919	16	2,952	13	2,976	13	3,136

高知県の畜産 平成 21 年版

平成 22 年 3 月発行

編集発行 高知県農業振興部畜産振興課

〒780-0850 高知市丸ノ内 1 丁目 7-52

TEL (088) 821-4551

FAX (088) 821-4578